



「いっぱいペタンしちゃった！」



黄色のケント紙に
思い切り、ペタン！



「(スタンプする紙)どれがいい？」
の声かけに黄色の用紙を選ぶM児



「先生、ペタンしたいの
紙ちょうだい」



「手でやってみようかな？」



青・赤・黄色のスタンプセット
～4歳児こいのぼりづくり～



「先生、ペタンしたいの、
紙ちょうだい。」

協力園
認定こども園
ひまわり幼稚園

(幼児の実態)
入園してから10日あまり。新入園児も少しずつ幼稚園に慣れ、登園後、遊びに着替えて自分の好きな遊びを始めます。誰とも遊べる、どこでも遊べる時間、園内を自由に行き来して好きな遊びを楽しんでいます。保育者と砂遊びを楽しんだり、ダンゴムシ探しに熱中したりしている子どもたちもいます。3歳のM児は、兄に連れられ4歳児・あお組の保育室に遊びに来ました。

M児は、あお組の入り口で、兄から担任に「T先生、ぼくの妹のMちゃん。入っていいですか？」と紹介されて一緒に保育室に入ってきました。

あお組では、4歳児が段ボールを丸めて好きな形を作ったり、ままたごと遊びで料理をしたりしています。また、中央のテーブルでは、ヤクルトの容器を利用したスタンプを絵の具に付けて、こいのぼりの背中の模様作りを楽しんでいます。M児が入った時、丁度、あお組の友達やヤクルトの容器の底に赤色を付けてペタペタと楽しそうにスタンプしていました。4歳児の保育室は、こいのぼりを作る活動を好きな時に、いつでもできるように環境構成がされています。

M児は、スタンプを楽しむ友達を見て自分もやりたくなったのか、真っ先にスタンプを置いてある中央のテーブルに近づきます。M児は、絵の具が入ったスタンプ台のお皿からヤクルトスタンプを全て取り出し、赤い絵の具が入ったお皿に自分の手を入れてペタペタしています。M児は、ヤクルトのスタンプより自分の手を使うスタンプ遊びを選びました。M児の手には、赤い絵の具がうつすらと付いています。

次は、思い切ったかのようにお皿の中にとんと右手を入れて手を強く押します。絵の具をしっかりと付けようとしたようです。そして、「先生、ペタンしたいの。紙ちょうだい。」とT先生にお願いをしました。先生は、M児がスタンプをしようとしている様子を見て「はあーい、ちよっと待っててね。」と応え、用紙を探すためにその場を離れました。

「持ってきたよ。」と、戻ってきたT先生の手には、大きさは色、材質が異なった5・6枚の用紙がありました。少し広めの薄い水色、M児の手が何回かスタンプできそうな小さめの白や薄紫色、大きさは小さめだけれども少し厚めのケント紙などです。T先生は、赤色が目立つような色、絵の具を吸い込む材質の用紙をいくつか選んでいます。そして、「Mちゃん、どれにする？」と、声かけをしました。すると、M児は、「これー」と黄色いケント紙を選びました。

M児は、黄色いケント紙の真ん中にゆっくり自分の右手をスタンプします。M児はゆっくり右手を上げ、手形を見て、「できた。」と、つぶやきます。

何もなかった紙に自らの手を押し付けることによって表れた赤色と手の形。それは、まさしくスタンプするという体験の跡であり、M児にとっては、手に付けた赤い絵の具が紙に付くという発見、それを見つけた喜びであったと思われる。

今度は、端っこ。ここにも手形が付きます。この手形に並ぶように、また手でスタンプします。M児の右手の手形が三つ並びます。色が薄くなると、左手を右手の上に乗せて力を加えて押し付けたり、指の先まで絵の具をつけて、その指先に力を入れてくつきりと手の形を付けようとしたりして様々なスタンプを楽しんでいます。

紙がスタンプでいっぱいになると、M児は、スタンプ遊びに満足したようで手を止めました。「Mちゃんの手がいっぱいできたね。」とT先生が声をかけると、「うん」と頷いて他の遊び場に移りました。T先生は、M児の兄に「Mちゃんがあか組に帰る時にスタンプの紙、持って行ってね。Mちゃんの名前を書いてあげよ。」と声をかけ、作品にM児の名前を書きました。

M児の作品が3歳児のあか組に持ち帰られることで、あか組の担任は、M児があお組の保育室で主体的に遊んだ一端を知ることができます。T先生と、M児がどのように遊んだのか詳しく話せる機会も生まれます。また、家庭に持ち帰れば、保護者には、M児の姿はもちろん、兄妹が仲良く園生活を過ごしていることが伝わります。保育者が学年を越え「子どもの遊びの姿」を共有することで、子どもたちは、園の保育者に理解され、見守られながら成長していくと考えられます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
「10の姿」



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるようになる。

事例から見られる10の姿の育ち
自立心

M児は、遊びに行った先で自分のやりたいこと「スタンプ遊び」を見つけて遊び始める。自分がスタンプ遊びをするには用紙が必要なのに気付かず、保育者に思いを伝える。思いを保育者から受け止められ、材料を揃えてもらえたことで、M児は、スタンプ遊びを楽しめた。

安心できる環境や願いを叶えてくれる保育者の存在で、M児はやりたいことや自分の主張を発揮し、満足するまで繰り返し遊ぶことができたと思われる。

このような体験の積み重ねが、遊びや生活の中で様々なことに挑戦したり、教師や友達の力を借りたり励まされたりしながら、自分の力でやり遂げる体験を通して達成感を味わい、自信をもって行動したりする5歳児後半の姿に繋がると思われる。

事例から見られる10の姿の育ち
豊かな感性と表現

4歳児のスタンプ遊びを見たM児は、自分もやりたくなる。スタンプの版に、ヤクルトの容器ではなく、自分の手のひらを選び、スタンプ台に直接手を入れて色を付ける。M児の行動は、「手でやる」というのか試してみたい」という興味や関心の表れと思われる。M児は、絵の具が付いた手を押し付けることによって紙に赤い色が表れることを見つけた喜びや、押し方によって表れ方が変化がある楽しさを感じていると思われる。

このような姿は、5歳児後半になって身近にある様々な素材の特徴や表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを表現するのに必要なものを選んだり、表現する過程を楽しんだりする姿に繋がると思われる。

自立心・豊かな感性と表現
環境構成のポイント

- 好きな場所で、やりたい遊びを選べる環境構成
園庭、保育室、好きな場所で、好きな遊びを選んで楽しめる園全体の自由な空間。M児が選んだ中央に置かれたテーブル、誰もが使えるようなスタンプセット。3歳児も作業しやすい低めのテーブル。
- 子どもの思いを受け止め、子どものやりたいことを尊重する保育者の存在
スタンプ遊びを希望した3歳児の願いを受け止め満足するまで遊びを見守り、達成感に共感する。種類の異なるスタンプの用紙を用意して子どもが選ぶという主体性を尊重する保育者の援助。
- 保育者相互の連携
作品を通して、保育者同士が連携してM児理解を深める。